



平成 20 年 4 月 14 日

各 位

会 社 名 株式会社アイディーユー
代 表 者 名 代表取締役社長 池添 吉則
(コード番号：8922 東証マザーズ)
問 合 せ 先 取締役管理本部長 岩 眞司
電 話 番 号 (06) 6452 - 7771 (代表)

特別損失の計上、繰延税金資産の取崩し並びに業績予想及び期末配当予想の修正に
関するお知らせ

当社は、経営資源を有効活用すべく選択と集中を行い、投資事業を大幅に縮小、保有不動産を早期売却することといたしました。これに伴い、本日開催の取締役会において、下記のとおり特別損失の計上及び繰延税金資産の取崩しを行うことを決定いたしましたので、お知らせいたします。

また、最近の業績とグループ会社の動向等を踏まえ、平成 19 年 10 月 10 日に公表しました平成 20 年 8 月期(平成 19 年 9 月 1 日～平成 20 年 8 月 31 日)の業績予想及び期末配当予想を下記のとおり修正いたしましたので、併せてお知らせいたします。

記

特別損失の計上について

当社は、不動産インターネットオークションの企画・運営会社として、従来マーケットへの商品供給を目的として、小規模物件を中心に不動産投資を行って参りました。

しかしながら、サブプライム問題に起因する金融市場の信用収縮等により、昨今の不動産市場においては、流動性の低下などの影響が見受けられ、大規模案件、開発案件など一部については上昇トレンドも見受けられる一方で、当社が商品供給する小規模物件については、流動性の低下が著しく、現況においては収益の確保が難しい環境であると考えております。

一方、不動産業界においては、取引の透明性・公平性・合理性を追求する機運が高まる中、昨年 6 月 11 日には当社が運営する「MOTHER'S AUCTION」が社団法人全国宅地建物取引業協会連合会の公認不動産インターネットオークションに認定され、また本年

4月には社団法人東京都宅地建物取引業協会が推進する「東京不動産取引所」開設準備の推進会社として、当社が指名されることとなりました。

以上のことから、中期的観点から不動産流通の革命を目指す当社としては、限られた経営資源を有効活用すべく、投資事業の大幅な縮小及び積極的な新規投資を行わない方針とし、オークション事業に注力することといたしました。

また、不透明な不動産市況において、物件の保有リスクを鑑み、現在保有している物件については、選択と集中を速やかに実行すべく、早期売却を見込んだことから、当中間期に、棚卸評価損として、連結においては2,905百万円、個別においては1,620百万円の特別損失の計上を見込んでおります。

繰延税金資産の取崩し

下期及び来期以降の事業計画について保守的に判断し、また財務の健全性を確保する目的から、当中間期に、連結においては1,273百万円、個別においては1,283百万円の繰延税金資産を取崩すことといたしました。

業績予想の修正

1. 平成20年8月期中間期（平成19年9月1日～平成20年2月29日）

（1）連結業績予想の修正

（金額の単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回発表予想（A）	42,000	2,500	1,300	700
今回修正予想（B）	12,646	382	1,082	5,740
増減額（B - A）	29,354	2,882	2,382	6,440
増減率（%）	69.8	-	-	-
前期実績（平成19年8月中間期）	23,681	2,000	1,316	529

（2）個別業績予想の修正

（金額の単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回発表予想（A）	39,000	2,200	1,100	550
今回修正予想（B）	4,771	1,594	2,027	6,303
増減額（B - A）	34,229	3,794	3,127	6,853
増減率（%）	87.7	-	-	-
前期実績（平成19年8月中間期）	12,602	973	565	438

2. 平成20年8月期（平成19年9月1日～平成20年8月31日）

（1）連結業績予想の修正

（金額の単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	100,000	7,500	5,000	3,000
今回修正予想（B）	30,000	2,200	1,000	3,800
増減額（B - A）	70,000	5,300	4,000	6,800
増減率（％）	70.0	70.6	80.0	-
前期実績（平成19年8月期）	53,404	5,459	4,158	2,301

（2）個別業績予想の修正

（金額の単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	85,000	6,800	4,500	2,600
今回修正予想（B）	16,000	1,300	450	3,900
増減額（B - A）	69,000	5,500	4,050	6,500
増減率（％）	81.1	80.8	90.0	-
前期実績（平成19年8月期）	37,562	3,707	2,950	2,294

3. 修正の理由

今年度の計画では、各種オークションシステムのサービスインが下期となることから、上期は保有物件の売却による収益確保を中心とし、オークションフィー収入は下期に計上することとしておりました。

< 中間期 >

連結業績につきましては、第一四半期（平成19年9月～11月）においては売上及び利益とも計画通りに進捗しておりましたが、第二四半期（平成19年12月～平成20年2月）においては、前述のとおり当初計画通りの物件売却が進まず、不動産投資収益を確保することができなかったことから、売上高が当初計画を大幅に下回るものと見込んでおります。

利益面につきましては、売上高の減少に伴って、営業利益、経常利益も当初計画を大幅に下回り、また特別損失の計上並びに繰延税金資産の取崩しにより、当期純利益についても、当初計画を大幅に下回るものと見込んでおります。

個別業績については、連結とほぼ同様の理由により、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益いずれも当初計画を大幅に下回るものと見込んでおります。

この結果、中間期の連結業績については、売上高12,646百万円（前年同期比46.6%減）、営業損失382百万円（前年同期は営業利益2,000百万円）、経常損失1,082百万円（前年同期は経常利益1,316百万円）、中間純損失5,740百万円（前年同期は中間純利益529百万円）、個別業績予想については、売上高4,771百万円（前年同期比62.1%減）、営業損失1,594百万円（前年同期は営業利益973百万円）、経常損失2,027百万円（前年同期は経常

利益 565 百万円) 中間純損失 6,303 百万円 (前年同期は中間純利益 438 百万円) を見込んでおります。

< 通期 >

連結業績につきましては、上記理由によりオークション事業に集中することから、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益いずれも当初計画を下回ると見込んでおります。

個別業績については、連結とほぼ同様の理由により、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益いずれも当初計画を大幅に下回るものと見込んでおります。

この結果、通期の連結業績予想については、売上高は 30,000 百万円 (前年同期比 43.8% 減) 営業利益 2,200 百万円 (前年同期比 59.6% 減) 経常利益 1,000 百万円 (前年同期比 75.9% 減) 当期純損失 3,800 百万円 (前年同期は当期純利益 2,301 百万円) 個別業績予想については、売上高 16,000 百万円 (前年同期比 57.4% 減) 営業利益 1,300 百万円 (前年同期比 64.9% 減) 経常利益 450 百万円 (前年同期比 84.7% 減) 当期純損失 3,900 百万円 (前年同期は当期純利益 2,294 百万円) を見込んでおります。

期末配当予想の修正について

1. 平成 20 年 8 月期 期末配当予想の修正

	中間期末	期 末	年 間
前回発表予想 (平成 19 年 10 月 10 日)	0 円 00 銭	2,000 円 00 銭	2,000 円 00 銭
今回修正予想	0 円 00 銭	0 円 00 銭	0 円 00 銭
(ご参考) 前期 1 株当たり配当金実績	0 円 00 銭	2,000 円 00 銭	2,000 円 00 銭

(注) 前期期末配当金の内訳 普通配当 1,500 円 00 銭 記念配当 500 円 00 銭

2. 平成 20 年 8 月期 配当予想の修正理由

当期の配当につきましては、上記の通り当期純損失を計上する見込みとなったことから、誠に遺憾ながら見送らせていただきます。

(注) 上記予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は今後の様々な要因により、予想と異なる場合があります。

以 上